

令和7年度

岐阜工業高等専門学校

参与会報告書

令和7年9月

岐阜工業高等専門学校 参与会

令和7年度参与会日程

期 日：令和7年9月26日（金）13：00～15：40

会 場：岐阜工業高等専門学校 大会議室

13：00～ 進 行 総務課長
会長（議長）の選出

13：05～ 開 会 議長
出席者紹介

13：10～（1）本校の現況報告（校長）

13：20～（2）前回参与会の指摘・助言に対する取組状況報告（校長）

13：30～（3）本校の自己点検・評価に関する諮問

①教育の内部質保証システム

（点検評価・フォローアップ委員会委員長）

②教育組織及び教員・教育支援者等（教務主事）

③学習環境及び学生支援等（学生主事）

④財務基盤及び管理運営（説明省略）

⑤準学士課程の教育活動の状況（教務主事）

⑥専攻科課程の教育活動の状況（研究主事）

14：40～（4）本校の基本的な計画・運営等に関する諮問

①小中学生の教育支援（地域貢献）について（山田教授）

②いじめ防止対策の取組について（学生主事）

15：00～（5）総括

15：25～（6）校長謝辞

15：30 閉 会

岐阜工業高等専門学校 参与委嘱者名簿

(五十音順, 敬称略)

うえまつ よしひこ
植松 美彦

岐阜大学 工学部長

う さ み こうぞう
宇佐美 晃三

岐阜高専若鮎会 会長

うしごめ すすむ
牛込 進

欠席

株式会社TYK 代表取締役会長
(一般社団法人岐阜県工業会 相談役)

かみや けんいち
神谷 憲一

欠席

岐阜県中学校長会 会長
(大垣市立上石津学園 校長)

代理

各務原市立鵜沼中学校 校長

はやし かおり
林 香里

ごう やすひこ
郷 泰彦

岐阜県商工労働部 次長

さわだ あつし
澤田 敦

欠席

中日新聞岐阜支社 報道部長

じんぼ むつこ
神保 睦子

豊橋技術科学大学 理事・副学長

みしま あや
三島 綾

岐阜高専教育後援会 会長

参与会出席者名簿

岐阜工業高等専門学校関係者

大塚 友彦		校長
柴田 良一		副校長（教務主事）
遠藤 登		副校長（研究主事）
水野 和憲		副校長（学生主事）
菅 菜穂美		副校長（寮務主事）
鶴田 佳子		専攻科長
山田 実		点検評価・フォローアップ委員長
久保田 圭司		一般科目（人文）学科長
山本 浩貴	欠席	一般科目（自然）学科長
片峯 英次		機械工学科 学科長
羽渕 仁恵		電気情報工学科 学科長
北川 秀夫		電子制御工学科 学科長
水野 剛規		環境都市工学科 学科長
青木 哲		建築学科 学科長
小林 義光	欠席	テクノセンター長
中島 泰貴		図書館長
山田 博文		情報処理センター長
野々村 咲子		学生相談室長
田島 孝治		国際交流室長
竹内 美佐子		事務部長
阿部 亘		総務課長
國枝 和代		学生課長

■令和7年度 度岐阜工業高等専門学校 参与会

開 会

大塚校長より開会の挨拶があった。

参与 自己紹介

参与より自己紹介が行われた。

岐阜高専の現況報告

大塚校長より資料に基づき報告があった。

前回参与会の指摘・助言に対する取組状況報告

大塚校長より資料に基づき報告があった。

岐阜高専の自己点検・評価に関する諮問

①教育の内部質保証システムについて

山田点検評価・フォローアップ委員長より資料に基づき説明があった後、意見交換を行った。

②教育組織及び教員・教育支援者等について

柴田教務主事より資料に基づき説明があった後、意見交換を行った。

③学習環境及び学生支援等について

水野学生主事および菅寮務主事より資料に基づき説明があった後、意見交換を行った。

④財務基盤及び管理運営について（説明省略）

⑤準学士課程の教育活動の状況について

柴田教務主事より資料に基づき説明があった後、意見交換を行った。

⑥専攻科課程の教育活動の状況について

遠藤研究主事より資料に基づき説明があった後、意見交換を行った。

岐阜高専の基本的な計画・運営等に関する諮問

①小中学生の教育支援（地域貢献）について

山田教授より資料に基づき説明があった。

②いじめ防止対策の取組について

水野学生主事より資料に基づき説明があった。

総括

別紙のとおり、本校の基本的な計画・運営等に関する内容を含め、意見交換が行われた。

閉 会

大塚校長より閉会の挨拶があった。

参与による点検・評価票

点検・評価実施年月 令和6年9月

点検・評価対象期間 令和6年(2024)年度～令和7年(2025)年度

評価ランク

評価5：非常に優れている。評価4：良好である。評価3：おおむね良好である。

評価2：やや不十分である。評価1：不十分である。

自己点検・評価に関する事項

岐阜高専の自己点検・評価について

【5段階評価】 評価5…2 評価4…4 評価3 評価2 評価1

平均 4.33

- 【A】 スパイラルアップ、将来計画委員会、教務会議等、点検評価・フォローアップが適切に機能している。
- 【C】 さまざまな取組の状況について、観点と基準を明確にして自己評価し、改善につながる丁寧な営みが実施されており、それが質の高い教育実践につながっていると感じた。特に、教育の特色として示されている3つの特色については、現代社会で求められる資質・能力を見極めて、必要な力が着実に伸ばせるよう工夫されていると感じた。
- 【D】 卒業生・修了生、進路先などによる評価も得ながら、教職員により適切に自己点検・評価がなされている。また、自己点検や第三者評価で見つかった課題にも速やかに対応し、教育の質の改善・向上につなげている。
想像力、実践力等を育む教育方法の工夫（観点6-3-③）では、様々な実験・実習・研究プログラムが設定されており高く評価できるが、特別実習（インターンシップ）は県内企業の事例が少ないとの説明があった。県内にも学生の実践力向上に貢献しうる企業が多数立地しており、今後はこれらの活用も検討いただきたい。
- 【E】 内部質保証に関しては、実施体制や手順が十分に規定され、教育の質の改善や向上が行われている。一般科目担当の教員の公募が行われているが、近年の教員採用は希望通りの採用が行われる状況ですか。
学生の生活・健康・メンタルヘルス等に関して、ハラスメントといじめ対策に関しては、十分に対策されているが、精神的な問題がある学生に対する対応をもう少し詳細に記述して欲しい。近年は、精神的な問題のある学生やコミュニケーションが取れない学生も増加しつつある。高専ではそのような問題は、まだ、顕在化していないのでしょうか。
教育課程では、準学士課程と専攻科課程ともに、技術力等を身につけると同時に国際的な対応力を身につける工夫もなされており、評価したい。

基本的な計画に関する事項

小中学生の教育支援（地域貢献）について	
【5段階評価】	評価5…5 評価4…1 評価3 評価2 評価1
	平均 4,83
【A】	STEAM教育の実施，中学校への出前授業の回数，公開講座など，地域への教育支援が十分行われている。
【C】	中学生だけでなく小学生や幼稚園児・保育園児にも対象を広げて，「ものづくり」の楽しさや学校への興味を喚起する取組となっている点が大変評価できる。
【D】	<p>将来の担い手となる小中学生の科学技術やものづくりに対する興味を育むことは，製造業が多く立地する岐阜県にとって極めて重要である。イベントや授業当日のみならず，教材開発などにも多くの労力を費やしておられる教員の方々に敬意を表したい。</p> <p>また，学生に小中学生と触れ合う機会を与え，科学技術の面白さやものづくりの魅力を小中学生にわかりやすく伝える実習は，学生の意識啓発・資質向上にもつながる。</p>
【E】	<p>小中学生の教育支援を積極的に行っていることを大いに評価したい。近年は，「ものづくり」分野の志願者（大学での卒研テーマや就職時の企業選択など）が，18歳人口の減少よりも減少しているように感じる。小さい時から「ものづくり」に触れて興味を持つことは大変重要であると考え。日本の技術力の向上のためにも，ぜひ継続していただきたい。また，できれば参加人数や男女比などのデータも整理していただければと思う。</p>

その他本校の運営に関する事項

いじめ防止対策の取組について	
【5段階評価】	評価5…1 評価4…2 評価3…2 評価2…1 評価1
	平均 3,5
【A】	<p>いじめに対する対策は十分行われている。</p> <p>ネットリテラシーに関する具体的対策についてももう少し説明が欲しかった。</p>
【C】	<p>参与会の中でも話題になったが，いじめアンケートの学生からの平均回収率が64%というのは，かなり低い。Webでの回答とのことだったが，一斉に回答する時間を設定するなど全員が回答することを当たり前にした。いじめなど学生間のトラブル等がみえにくくなっているからこそ，さまざまな方法でSOSを出せる仕組みを整えていただくとよいのではないかと。</p>
【D】	<p>いじめ防止に向けて基本計画や対策プログラム，対処マニュアルを整備していること，個別案件を発見した際には速やかに対応していることは評価できる。</p>

一方、他の参与から質問・指摘があったとおり、教職員の研修受講率が43%、アンケートの回収率が64%に留まっている点は改善が必要である。

- 【E】 いじめ防止に対する対策が、非常に充実して行われていると感じた。事件が起きる前に未然に防ぐことは重要である。しかし、教職員等の防止対策に関する研修会の受講率が低いのは残念である。ぜひ、向上することを期待する。ただし、教員等や学生間の関係がギクシャクするようなことが無いように願いたい。

【その他, ご意見・感想など】

- 【A】 アカハラやパワハラに関する具体的対応策についてももう少し説明が欲しかった。
- 【B】 ぜひ、地域に貢献できる学生を育てていただく事をお願いします。
- 【C】 貴校のさまざまな取組、大変興味深く参加させていただきました。ありがとうございました。
- 【D】 これからも、理論と実践力を兼ね備えた優れた人材を地域に育成・輩出していただける教育研究機関として、岐阜工業高等専門学校の取り組みに期待しております。
- 【E】 近年、大学でLGBTQに関する問題も存在しつつあり、学内的にはトイレや更衣室の検討が必要となってきている。また、就職等で社会に出るときに切り替えたいという要望もたまにある。高専では、まだそのような問題は生じていないですか。
さらに、精神的な問題を抱えている学生が増加しており、現状のカウンセラーでは対応できず人数を増やす必要も出てきているが、高専では十分に常置されていますか。
- 【F】 外部の方が高専の教員にメールをしても3週間ほど返事がないことや、内容が一方的である、といった声を耳にしました。このようなレスポンスの遅さは「忙しいから」という理由ではなく、教員としての社会的マナーが十分に備わっていないためではないかと感じられます。一般の社会やビジネスの世界では、常識やマナーは研修等を通じて身に着ける機会がありますが、高専の教員にはそのような学び場が少ないかもしれません。学生への教育だけでなく、教員の対応そのものが「高専の顔」として外部に映るため、非常識と受け取られる対応は避けるべきと思います。そこで、ハラスメント研修に加え、教員向けにビジネスマナー、社会人基礎、法的知識、コンプライアンス、コミュニケーション能力などを学ぶ研修の場を設けるとよいのではないのでしょうか。

令和7年度岐阜工業高等専門学校 参与会
意見交換要旨

令和7.9.26

<p>【A】</p>	<p>教育組織及び教員・教育支援者等について、岐阜大学もそうであるが、若手や女性が少ない。また、外国人教員の活躍もアピールすると良い。</p> <p>学習環境及び学生支援等について、岐阜大学では、ハラスメントの相談窓口を学生へガイダンス等で再三周知しているが、学生が把握しておらず苦慮しており、対策としてカードを作成し学生へ配付した（参考情報）。</p> <p>いじめ防止対策の取組について、令和6年度のいじめ防止対策等に関する研修の受講率やいじめに関するアンケートの回収率は改善が強く望まれる。岐阜大学では学長が受講率等を確認し、指導する体制としている。</p> <p>岐阜大学工学部も岐阜高専と同様に女子学生が少ない。高校生の段階で指導しても遅く、小中学生の段階で理系に進むよう指導すべき。今後、そのような教育を高専と大学が協力して行えると良い。</p>
<p>【B】</p>	<p>岐阜高専が教育や地域貢献に一生懸命取り組んでいる事がよく分かった。行政を預かる立場（大野町長）としてのコメントになるが、少子化が進んでおり、東京一極集中など、地元においてもその後、都市圏に就職し地元に戻らない事例が起こっている。その中で、岐阜高専には是非、岐阜が住みやすい地域であることをアピールしていただきたい。</p>
<p>【C】</p>	<p>岐阜高専が実践的な学びに力を入れていることがよく分かった。自発的に学ぶ仕組みが多くある点、自分に合う方向性を見つける選択肢が多くある点が優れている。</p> <p>また、小中学生への種まきがとても大事と思う。小中学生へ色々な学習機会を提供することが、高専を知ることや理系の学びに繋がる。</p> <p>加えて、推薦選抜において、令和9年度以降の入学者から（地域性や学校毎の基準等に差異があることから）学校での評価が困難な特別活動の条件が無くなることは中学校の立場からは有難い。</p>
<p>【D】</p>	<p>理論と実践の両方を学ぶ岐阜高専の工夫がよく分かった。</p> <p>冒頭で、岐阜高専の地域への連携は道半ばとの説明があったが、岐阜高専の学生には是非、地域の企業で活躍してほしい。</p> <p>また、地域の課題解決に県内の企業がより関わられるように配慮をいた</p>

だけると有難く、企業自身も岐阜高専の学生に選ばれるような努力が必要と思っている。

魅力的な企業を紹介するなどの形で、今後一層の連携を深めたい。

【E】

18歳人口の減少により、愛知県の工業高校などは志願者の確保に苦慮しているが、その中で岐阜高専は堅実にその数を確保しており、このまま頑張っていたきたい。

最近、製造業を志望する学生も減っている。小学生向けの理科教室などでは生徒はとても熱中するが、学年が進むにつれ参加する生徒は減っていく。このため、是非、継続してものづくりが楽しいという気持ちを喚起するような取組を行っていただきたい。

【F】

保護者の立場から、岐阜高専の教職員が学生に対して一生懸命に取り組んでいることがよく分かった。

一方で、学生や外部の方から、コミュニケーションをとることが難しい教員もいると聞いている。多忙とは思いますが、悪い印象に捉えられると残念であるため、常識やマナー等の面でも、その改善に取り組んでいただけると保護者としても有難い。

校 長

話題に挙げられた小中学生への働きかけについて、岐阜高専では、子供たち向け・地域向けの教育支援に力を入れており、本校1校で年間約6,000人を伴う地域貢献活動を行っている。

地域教育に貢献することで、地域の小中学校（先生方および保護者を含む）、地域の方、教員および学生が加わりひとつのコミュニティが出来ており、そのコミュニティが新しい価値を生んでいるのではないかと感じる。

子供たちは、学生のお兄さん・お姉さんが色々な事を教えてくれるため、地元への愛着を深め、地元で何か貢献してやろうという気持ちを育んでいるのではないかと思う。

また在校生に話を聞いたところ、地域に貢献して嬉しいとのコメントも聞かれ、地域の皆様のおかげで、本校の学生も地域貢献へのモチベーションを育んでいただいていると感じる。

これが良い循環になると、子供たちや学生が地域貢献の思いを強め、地元に着定する子も増え、新しい価値やイノベーションが生まれるのではないかと思う。

また、そのためには、コミュニティに入る我々教員も、女性の視点で

色々なアイデアを出す必要があり、女性の採用にも力を入れる必要がある。

以前より、高等教育機関は教育と研究は両輪と言われるが、高専にはもう一輪、学生支援（合理的配慮、いじめ対策等）がある。

いじめの受講率、アンケート回収率が100%にならないのは大変問題のあることと思っており、いじめやハラスメントは著しい人権侵害・憲法違反であるため、それにも取り組んでいく必要がある。

課題が沢山あるが、今後も継続していく業務と、統廃合して良い部分もあると思うため、それらも見直しながら、良い教育で良い若者を育てるよう邁進していきたい。

本日は大変有意義なご助言をいただきありがとうございました。